

【授業科目】 チーム医療演習Ⅱ(実践) Practice of Team Approach to Health Care II

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭、豊田妙子、山口央輝、榎本喜彦、岡村勇飛	3 年次 前期	必修	1	30	演習	あり	卷末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	授業概要／チーム医療における協調性、責任感、コミュニケーション能力の向上は必須である。また専門分野以外の勉強も学際性を伸ばすために必要である。本学の特性を活かし2 学科共通の科目をもち学科の壁を越えて本科目を履修することにより、医療現場において必要とされる資質や知識、さらには情報管理やチーム運営についても修得させる。各科混成の小グループを作り、提示された症例を各科の専門性を基に診療計画、検査結果の解釈、危機管理などをディスカッションし、医療チームの一員として他職種連携を实践させる。ディスカッションを通じ、医療コミュニケーションも体得させる。*実務経験を持つ教員が授業を進める。課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにはコメントすることでフィードバックを行なう。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①チーム医療における各職種の意義を説明できる。 ②チーム医療における他職種の業務内容を説明できる。 ③特定疾患における各職種の考え方を理解できる。 ④チーム医療における情報管理や運営の方法を習得し、職業倫理を高める。							
時間外学習に 必要な学修内容 および 学習上の助言	毎回の演習内容について復習とまとめを行う(60分)。 臨地実習など医療現場で学んだ知識を生かし、特定の疾患に対しそれぞれの職種としてどのように対応していくかを他学科学生にわかりやすく説明し、お互いの職能、知識を共有し、チーム医療の根本となるチーム意識を高めてほしい。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2 単位 1 5 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回)(1 単位 1 5 回科目の場合：予習+復習 1 時間/1 回)(1 単位 8 回科目の場合：予習+復習 4 時間/1 回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第 1・2 回 ガイダンス、グループ分け 第 3・4 回 演習 1-1. 症例①についてグループワーク 第 5・6 回 演習 1-2. 症例①に対するグループ単位でのレポート・資料作成、発表 第 7・8 回 演習 2-1. 症例②についてグループワーク 第 9・10 回 演習 2-2. 症例②に対するグループ単位でのレポート・資料作成、発表 第11・12 回 演習 3-1. 症例③についてグループワーク 第13・14 回 演習 3-2. 症例③に対するグループ単位でのレポート・資料作成、発表 第15 回 総合ディスカッション						全て共同	
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート 100%							
教科書	必要に応じて資料を配付します。			参考書等		なし		
学生への メッセージ	皆さんが目指す医療職に関して、お互いの職能と知識を共有し、チーム医療の根本となるチーム意識を高めてほしい。これまで学修してきた医学知識をフル活用し、コミュニケーション能力、説明能力をいかに発揮してください。							